

Freude

vol.18-6 2024.12.11 wed

12/18 みやみみ(神戸ホール)
 12/25 (水) 小田北ひみ
 1/1 (水) みやあみみ
 1/8 (水) 重ねみ
 19 (水) 小田北

♪年内練習あと1回！クリスマス練習に友達誘おう♪

来週 12/18 は神戸フロイデ合唱団の第九演奏会なので私たちの練習はお休みです。
 ということは～！年内練習は残すところあと1回！今年の締めくくり、次回練習までを充実して過ごそう。
 ・譜読みしたところのおさらい。・おともだちに宣伝・チラシを置かせてもらったり、配ったり
 Facebook・ポスト（旧・Twitter）随時更新しています！お友達にも見てもらうよう伝えてね！

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ チラシを配ろう ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

年内の演奏会抜粋。チラシ配りは閉演後。曲目にもよりますが開演後1時間半めやすで閉演です。

時間をみはからって行こう。自分が聴きに行った帰りだといいよね。この他、各地市民ホール等でもぜひ！

日時	ホール	内容
12/15(日)14:00 開演	シンフォニーホール	広上淳一＆大阪フィル「第九」
12/15(日)15:00 開演	いずみホール	コレギウム・ムジクム「クリスマスコンサート」
12/19(木)18:30 開演	シンフォニーホール	関西学院クリスマス
12/22(日)13:00 開演	シンフォニーホール	テレマン「第九」
12/28(土)14:00 開演	シンフォニーホール	センチュリー「第九」

ちょっとまだ先のはなしですが 仲間の合唱団のロビー応援に行こう！

「混声合唱フロイデ21」演奏会 2月11日（火・祝）甲東ホール 昼公演

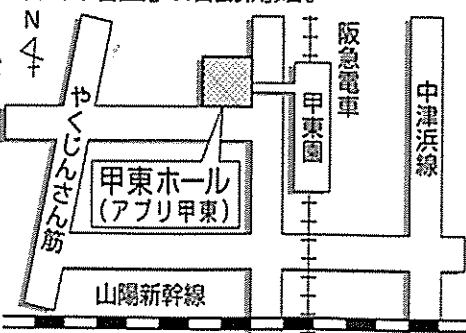
混声合唱フロイデ21（旧名称・尼崎フロイデ合唱団）は、私たちの兄弟関係の合唱団です。

1977年フロイデ合唱団の尼崎練習会場から1980年「尼崎フロイデ合唱団」の活動開始。

1999年「混声合唱フロイデ21」に改称。現在は主に、日本の抒情曲などに取り組んでいます。昨年、元団長の森山光典さんが空に旅立たれました、歌うことが大好きで合唱団活動を続けるために、長年尽力されてこられました。今回は追悼の気持ちのこもった演奏会になりますね。

私たちの応援内容は、ロビーでチケットもぎりやプログラム渡しなど。

まだ先ですが2/11が祝日なので、今から、メンバー募りたい！



2月11日（火祝）13時～16時くらい（時間がない方は、終演まで居られなくてもオッケー！）

開園時間がまだ決まっていませんが、14時開演の場合は13時集合、15時開演なら14時集合です。

阪急「甲東園」駅直結です。（梅田から阪急神戸線「西宮北口」で今津線に乗り換えて2つ目）

行ける方、ヨシダイズミまでおっしゃってください！ぜひぜひ、おねがいします！

12/4の練習では、今まで譜読みしたところを「合わせて練習」しました。

ハイドンはキリエからグロリアの前半まで。モーツアルトはキリエ～グロリアの76小節目まで合わせましたよ。

改めて！今回の曲のこと、ネット受け売り情報(^^♪ お友達を誘うとき「こんな曲だよ～」と宣伝しよう

♪ハイドン「ハイリッヒミサ」(1796年・74歳)

●まず「ハイドン後期六大ミサ」についておさらい。

ハイドン(Franz Joseph Haydn, 1732.3.31-1809.5.31)は、生涯の殆どをオーストリア エステルハージ家に仕え、楽長、作曲家としてだけではなく楽団員のとりまとめ、新曲の演奏家出演交渉など侯爵家の音楽全てを仕切っていました。1790年、当主の交代のタイミングで一時侯爵家を離れますが、1794年ニコラウス二世がエステルハージ家の当主となると、再びハイドンは呼び戻され、ニコラウス二世の命により、夫人のマリア・ヘルメネギルトの命名日の祝祭のために、毎年新しいミサ曲を作曲する事となりました。これが「後期六大ミサ」です。作曲年としては1796年「パウケン・ミサ」「ハイリッヒミサ」、1798年「ネルソン・ミサ」、1799年「テレジア・ミサ」、1801年「天地創造ミサ」、1802年「ハレモニーミサ」。当時のヨーロッパはフランス革命→ナポレオン、という時代が揺れに揺れたとき。6曲それぞれにその時々の状況が反映されています。

大阪フロイデはこれまで、ネルソン、テレジア、天地創造、パウケン・ミサを演奏。今回はシリーズ第5弾。

●「ハイリッヒミサ」とは

「ハイリッヒミサ」は「オッフィダの聖ベルナルドのミサ」の名称もあります。オッフィダのベルナルドは17世紀のカプチン・フランシスコ修道会の僧で、1795年5月19日に教皇ピウス6世によって列福。その聖名祝日である9月11日が、エステルハージ侯爵ニコラウス2世夫人マリア・ヘルメンギルデの聖名祝日である9月8日に近いため、両人を兼ねて賛美するためにアイゼンシュタットのベルク教会で1796年9月に初演されました。ちなみに、パウケン・ミサの初演は同じ年の12月ウィーン。ということは「ハイリッヒミサ」の方が先？6大ミサの1番目？「ハイリッヒ」とは、本曲のサンクトゥスの中にオーストリアの古い教会音楽「Heilig, heilig, heilig, du bist allzeit heilig」が引用されることによる（ハイリッヒはサンクトゥス（聖なる）に相当するドイツ語）。ちなみに、パウケン・ミサ、ネルソン・ミサと「・」が入りますが、ハイリッヒミサ、は入りません。（入って記載されているものもありますが、入らないのが正しいそうな）「聖なるミサ」というひと続きの言葉だから、でしょうかね(^_-)-☆お祝いの気持ちがこもった、華やかで美しい音楽です。

♪モーツアルト「パストラル・ミサ K140」(1773年・17歳)

この曲は、最初、偽作とも言われたりして糸余曲折の扱いでしたが、今では、モーツアルト1773年ごろザルツブルクでの作曲作品として「ホンモノ！」となりました。このころモーツアルトにとって大きな事件がありました。実はその前々年1771年12月、モーツアルト父子の最大の理解者だったシュラッテンバッハ大司教が亡くなつたのです。父子の落胆は大きかった。そして1772年3月悪名高きコロレド大司教（音楽に無理解なだけで、司教としては偉かったかも、知らんけど）が就任しました。モーツアルト父子はこの段階では予定されていた演奏旅行を許されて、各地を回っています。1773年のザルツブルク滞在は、イタリアから戻った3月から7月にウィーンに旅立つまでの4ヶ月間でした。ザルツブルクでは、コロレドの就任儀式関連の作曲を精力的に行つたようです。

この曲もザルツブルクの司教座聖堂用に描かれたものと考えられています。「パストラル（キリストの聖誕のときの羊飼いにちなんで、クリスマスに演奏される8分の6拍子や8分の12拍子の子守歌風の曲）のミサ曲であることから、1773年の聖誕祭のために作曲されたと考えられる（モーツアルト全集校訂者・ワルター・ゼーン）」。つまり、クリスマスのための優雅な音楽ってことですよね～。おともだちにも、この曲のこと、教えてあげよう！